



神奈川県の率先実行の取組

県では、平成13年3月、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を本庁において取得し、その後出先機関等に順次認証範囲を拡大し、平成19年度には警察まで拡大し、全ての県機関が認証範囲となっています。

ISO14001は、環境に配慮した取組を継続的に改善する仕組みになっていることが特徴です。

知事が定めた環境方針に基づき、目的・目標を定め、これらを達成するため、行動計画「環境マネジメントプログラム」(7つの個別プログラムで構成)を作成しており、このプログラムをもとに、日常活動や業務を環境に配慮しながら進め、その進捗状況を定期的に点検し、見直しています。

この仕組み(PDCAサイクル)に基づき毎年取組を進めることにより、継続的に日常活動や業務が改善され、環境に配慮した活動になっていきます。

ここでは、平成19年度における各プログラムの取組状況(進捗状況)を報告します。

グリーン購入の拡大と廃棄物の削減に向けた率先行動プログラム

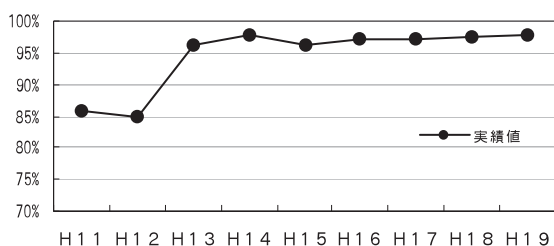
このプログラムは、物品を購入して、事務事業活動を行い、廃棄物となって排出するという一連の流れの中で環境配慮を行い、グリーン購入、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)を進めています。

▶表3-1 平成19年度目標と実績

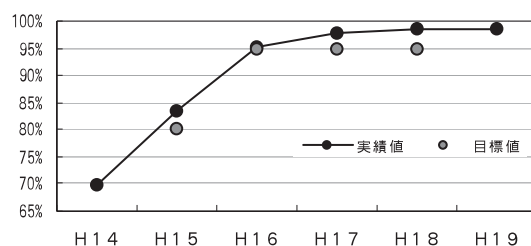
取組項目	目標	実績
本庁の経常物品のグリーン購入率の向上	☆	97.8%
出先機関等のグリーン購入率の向上	☆	98.5%
警察のグリーン購入率の向上	95.0%	97.5%
低公害車の購入率の維持(ただし、特殊車、特種車及び二輪車を除く)	☆	100%
本庁の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	99.9%
出先機関等の印刷物の再生紙等利用率の向上	100%	99.9%
警察の印刷物の再生紙等利用率の向上	100%	100%
本庁の廃棄物発生量の削減	☆	704t
本庁のリサイクル率の向上	☆	94.0%
出先機関等の廃棄物発生量の削減	☆	5,360t
出先機関等のリサイクル率の向上	52.0%	49.4%
警察の廃棄物発生量の削減	1,940t	1,875t
警察のリサイクル率の向上	25.0%	32.5%
本庁のコピー用紙使用量の削減	☆	9,049万枚
出先機関等のコピー用紙使用量の削減	☆	12,235万枚
警察のコピー用紙使用量の削減	☆	11,005万枚

※☆印は維持管理項目(実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目)

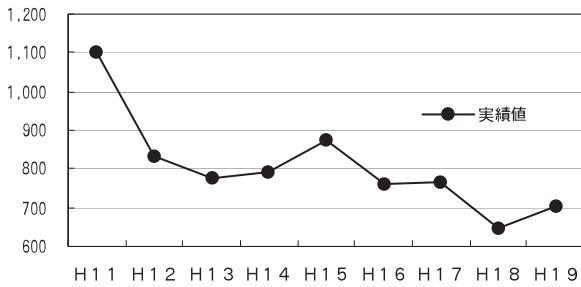
▶図3-1 本庁の経常物品のグリーン購入率(%)の推移



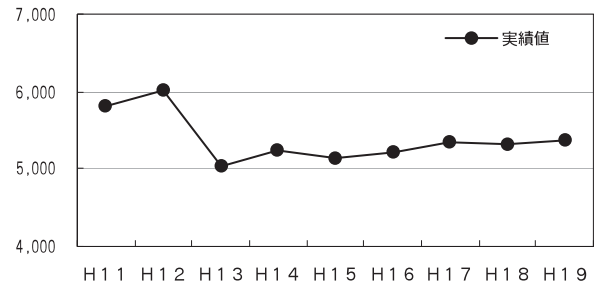
▶図3-2 出先機関等のグリーン購入率(%)の推移



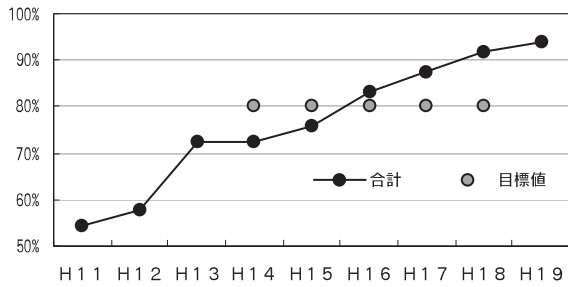
▶図3-3 本庁の廃棄物発生量 (t) の推移



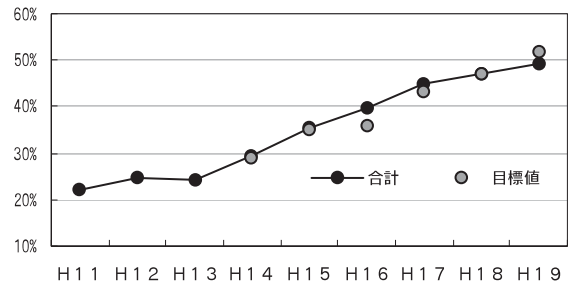
▶図3-4 出先機関等の廃棄物発生量 (t) の推移



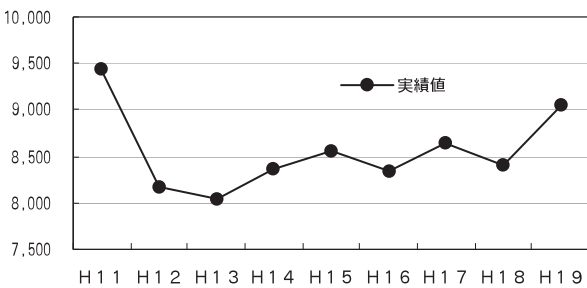
▶図3-5 本庁のリサイクル率 (%) の推移



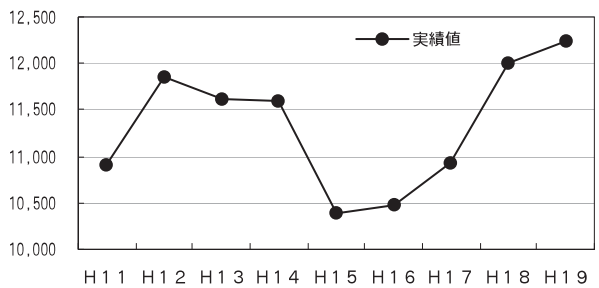
▶図3-6 出先機関等のリサイクル率 (%) の推移



▶図3-7 本庁のコピー用紙使用量 (枚数) の推移



▶図3-8 出先機関等のコピー用紙使用量 (枚数) の推移



地球温暖化防止に向けた率先行動プログラム

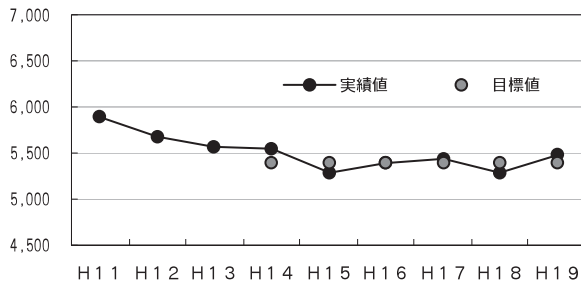
このプログラムは、温室効果ガス総排出量に大きく関与する、各庁舎のエネルギー使用量の削減、浄水場のエネルギー使用量の削減、道路照明への省エネルギー型の照明ランプの導入などを進めています。

▶表3-2 平成19年度目標と実績

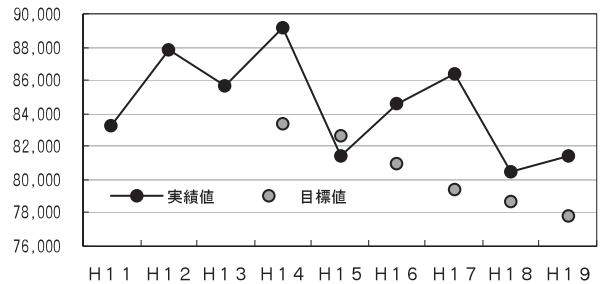
取組項目	目標	実績
本庁の温室効果ガス排出量の削減	5,400t	5,480t
出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	77,800t	81,380t
寒川浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	122t/百万m ³	120t/百万m ³
谷ヶ原浄水場 送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	109t/百万m ³	108t/百万m ³
道路照明1本当たりの温室効果ガス排出量の削減	360kg/年・本	350kg/年・本
警察の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	27,031t以下	29,359t
本庁の水道使用量の削減	☆	6.8万m ³
出先機関等の水道使用量の削減	☆	226.2万m ³
警察の水道使用量の削減	79万m ³	76.7万m ³

※☆印は維持管理項目(実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目)

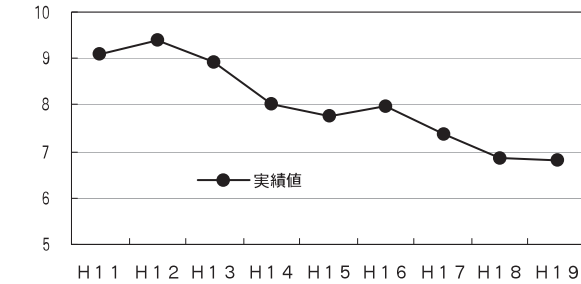
▶ 図3-9 本庁の温室効果ガス排出量 (t) の推移



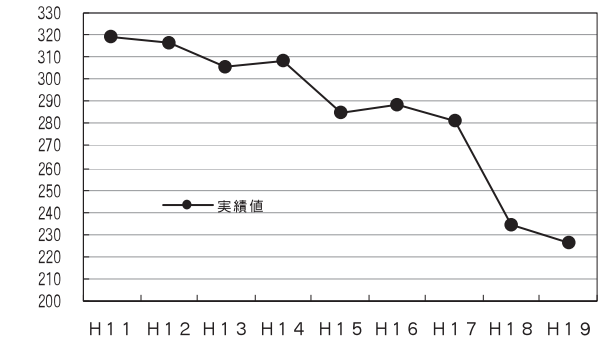
▶ 図3-10 出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量 (t) の推移



▶ 図3-11 本庁の水道使用量 (万 m³) の推移



▶ 図3-12 出先機関等の庁舎の水道使用量 (万 m³) の推移



化学物質等の適正管理プログラム

このプログラムは、化学物質等による環境負荷を軽減するため、法律等で規制されている物質や機器などについて、法を遵守し、より環境負荷を軽減できるよう自主的な対応を進めています。

環境配慮型、環境創造型公共工事の推進プログラム

このプログラムは、公共工事の構想・計画段階、実施設計・積算段階、発注段階、工事段階、検査段階の各段階における環境配慮を進めるため、仕様書や現場説明書における環境配慮項目の拡大、工事の各段階におけるチェックリストの作成や見直し等を行い、環境配慮型、環境創造型工事を進めています。

また、グリーン資材調達の推進やリサイクル率の向上に努めており、主要な資材等については目標を定め実績把握を行っています。

▶ 表3-3 平成19年度目標と実績

取組項目	目標	実績
再生砕石の利用率の向上	☆	82.2%
再生アスファルト合材の利用率の向上	☆	61.4%
コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.8%
アスファルト・コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.9%
建設発生木材のリサイクル率の向上	95.0%	98.9%
環境創造型、環境配慮型公共工事の情報発信数(発信所属数)	49所属	49所属

※☆印は維持管理項目(実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目)

環境基本計画

神奈川県 の 環 境 分 野 に お け る 基 本 的 な 計 画 で あ る 環 境 基 本 計 画 に 位 置 づ け て い る プ ロ ジ ェ ク ト を 進 め て い ま す 。 ま た 、 こ れ ら の 進 捗 状 況 に つ い て 、 環 境 審 議 会 や 県 民 に よ る 点 検 に 加 え 、 内 部 監 査 ・ 外 部 審 査 に よ る 点 検 な ど を 実 施 し 、 よ り 効 果 的 に 進 め て い ま す 。

環境に視点を おいた 本来業務の改善プログラム

このプログラムは、環境に視点を おいた 本来業務の改善に向けて、各所属一つ以上のプログラムを作成し、実施しています。

平成 13 年度からは、各所属の取組の中で良い事例を「クローズアップ優秀事例」としてISO14001の内部監査員が評価して公表しています。

●19年度 クローズアップ優秀事例(抜粋)

○相模原土木事務所管内を流れる境川は、都市開発によって増加した住宅地を流れているが、自然のままの林や数少ない種類を含んだ多くの植物や樹木が残され、鳥や魚たちも多く生息している。現在、小規模河川改修事業として、洪水や水害の安全を確保するとともに樹木や川の蛇行を残し、動植物が生息しやすい環境に配慮した「多自然川づくり」に取り組んでおり、この取組を隣接する小学校の環境学習の推進に役立てるなど大いに貢献している。(毎年7月にみんなのまちづくり教室を開催)境川に隣接した「相模原市立宮上小学校」では、河川改修した1990年直後から環境学習の一環として、相模原土木事務所が主催する「みんなのまちづくり教室(小学3年生を対象)」に毎年参加しており、隣接した境川を生きた教材として環境学習に役立てている。同小学校では、これをきっかけとして、総合学習時間内に河川周辺のゴミ拾い(週2回)や、学習時間外にも土曜日と夏休みに児童の数人ずつが地域ボランティアの参加協力を得て、河川周辺の草取り・ゴミ拾い等の美化活動を行ってきた。さらにこの活動をアピールするために、河川敷での花壇作り(花植え・草取り・水やり)、自作の美化ポスターをお店に貼ってもらうなどして、住民意識の啓発にも貢献している。この活動により日本石鹼洗剤工業会主催、環境省後援の2006年度「地球びかびか大賞・最優秀賞」を受賞した。(相模原土木事務所)

○農業用水路において、耐用年数が経過し、コンクリートの老朽化による損傷の激しい水路更新整備の際、従来は既存の水路を取り壊し、新たに鉄筋コンクリートの水路を建設してきた。平成18年度はこの手法を見直し、耐用年数が経過した区間の、コンクリート構造体としての健全度を評価・確認するための診断調査を実施した。この診断調査により、劣化の度合いが少ない区間については、従来の新規更新ではなく、既存水路内面に高強度の樹脂含有コンクリートパネルを設置して複合構造体とする更生工法を採用することで、水路本体の補強と耐用年数の延伸を図った。従来の工法に比べると、新しい更生工法は、鉄筋やコンクリートなど資材量も大幅に少ないため、240mの更新整備で約5,700万円のコストを節減した。(うち、廃棄物の発生抑制による、コンクリートの取り壊し・積み込み・運搬にかかるコスト節減額は、280万円に相当)新しい更生工法は、既存の水路を取り壊さないため、従来工法では大量に発生するコンクリート廃材が事実上皆無となり、循環型社会づくりにおける最優先事項でもある廃棄物発生抑制”リデュース”を顕著に具現化し、既存水路を活用した”リユース型工法”と言える。(240mの更新整備で240m³(550トン)の廃棄物の発生を抑制)こうした取組により、廃材の運搬や最終処分等に伴う環境負荷は大幅に軽減され、さらに取り壊し工事に伴う騒音や振動もなくなった。(湘南地域県政総合センター農政部)

○道志ダム下流への維持放流は、道志調整池内の水を電動ポンプで汲み上げ放流していたが、このために電動ポンプへの電力供給並びに維持管理が必要とされていた。この維持放流を設備改良工事により自然流下方式に変更し、さらに自然流下される放流水を利用した小水力発電設備を設置した。この工事により放流方式を自然流下方式に変更したことで、電動ポンプの運転に掛かっていた電気代の年間約400万円が不要になるとともに、自然流下される放流水を利用した小水力発電設備を設置したことにより、地球温暖化の原因となる温室効果ガス(CO₂)を削減(年間約348トン)することができた。(相模川発電管理事務所)

環境保全及び創造に関する情報提供と教育及び学習の推進プログラム

このプログラムは、環境保全及び創造に関する情報提供と教育及び学習の推進のため、各所属において積極的に実施しています。

▶表3-4 平成19年度目標と実績

取組項目	目標	実績
マイアジェンダ登録学校数	610校	444校
ホームページ「かながわの環境」のアクセス数の向上	100万件/月	97万件/月



「環境マネジメントシステム」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/iso/index.htm>